

亡き母が絶えず称えしお念仏

家の習いとなりて残れり

新型コロナウイルスは、感染者数という点では少し落ち着きを見せてまいりましたが、疾患のある方や高齢者には、感染悪化してしまうとのちに関わる大変な病ですから、これからも自衛は必要でしょう。

ただ、自粛の影響で、経済的ダメージもひどく、日々の生活に苦しむ人も多く、できるだけ早く、平常に戻ることができるように治療薬やワクチンができることを願います。

皆さん、あと少しがんばりましょう

さて、話は変わりますが、仏さまのご縁というところ、ある日突然宗教心が芽生えたなんてことでも、自分で持えたものでもなく、誰かの出遇いが機縁となったのことで、特に自身より先にお生まれになった先人からなのでしょう。

幼い時は、祖母からご飯前は「仏さんにまんまんちゃん、あんしてからごはんをお食べ」といわれ、頂き物があつたら「食べるのは、まんまんちゃんにお供えすんでから」とおそわりました。「まんまんちゃん、あんってなに？」なんて考えてもみませんでした。

「まんまんちゃん」とは、「なもあみだぶつ」のことで、「あん」とは、「あなかしこ」の意味だといわれます。御文章の最後に「あなかしこ あなかしこ」と読み上げる、あの「あなかしこ」です。感動を含んだ言葉で、「とても」とか「ひじょうに」の意であり、「かしこ」は「恐れ多い」「尊いこと」をあらわします。ですから、「まんまんちゃん あん」は「南無阿弥陀 南無阿弥陀仏 ああもったいないことです」ということになります

大人が子どもにとって口にしやすくしたというより子どもが、お念仏する大人を真似したらそうなったのかもしれませんが

若い頃、東本願寺お東さんで、アルバイトをしていた頃があります。実はお東さんはお勤めなどちょっと我々とは違ったところもありまして。お念仏も「なまんだぶ なまんだぶ」とはいわず後半は声に出さないのです。「なまん～なまん～」というのです。

また、お念仏を何度も繰り返して、合掌礼拝して頭をさげて息を止めると、その呼吸と同時に、小さく「あ」と口からこぼれることがあります。推測ですが、これを幼子が聞きとったのではないのでしょうか

発祥は、関西といわれることからして、親しみをこめて「なまんなまん」にちゃんをつけ「まんまんちゃん」となり「あ」が付け加えられたのではないかと考えるところですが、いつから、どこでかもはっきりとは、わかりませんが、先人に学ぶ、まねをすることが、仏縁が伝わっていく一歩となるのでしょう

教行信証の最後には、

「^{さき}前に^{うま}生れんものは^{のち}後を導き、

^{のち}後に^{うま}生れんひとは^{さき}前を^{とぶら}訪え」

と書かれています。

芳英

